

力的に長時間の演奏は鑑賞に問題があるので四十分ぐらいの短時間で終わるミニコンサートとした。聴く人の心の安らぎになればこんな嬉しいことはありません。「ふるさとの四季」メドレー十二曲（源田俊一郎編曲）「えんぴつの歌」「手」（中田喜直作曲）などハーモニー啓の合唱に耳を傾けていただきました。

留学生伝統文化学習と生活適応支援

文化教室で培った伝統文化の知識と手技をコミュニケーションツールとして高校留学生に対する伝統文化体験学習会を開催、また外国人留学生やアーティストに対しては文化教室において個別指導を行い、授業料の一部を支援した。さらに、鴨沂会員による留学生のホームステイを実施した。

「外国人のための日本伝統文化教室」

茶道教室 裏千家 講師 真継 宗美

受講者…ヤン・グリガド（ドイツ人 京都国際アカデミー）

授 業…平成二十八年四月二十一日・六月十六日

華道教室 草月流 講師 木平 珠影

受講者…ダニエル・ラング（ドイツ人映像作家）

授 業…平成二十九年二月十一日

受講者…ミルコ・ヒンリクス（ドイツ人デザイナー）

ジルヴィオ・シエラー（ドイツ人デザイナー）

アレクサンドラ・ファウスト

（ゲーテ・インスティテュートスタッフ）

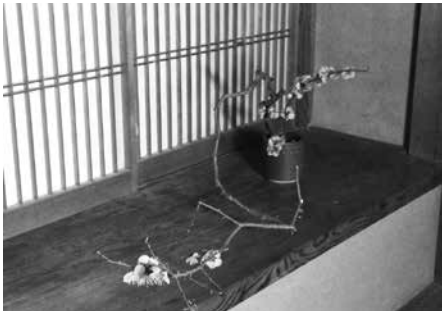
授 業…平成二十九年三月十一日

「華道を通じた国際交流」

知見佳寿巳

平成二十八年三月、鴨沂会華道教室に四名のドイツ人が体験入会されました。ゲーテインスティテュート（ドイツ政府が設立した国際文化交流機関）に招聘されたドイツの芸術家の方々です。

最初に訪れたダニエル・ラングさんという映像作家が木



平先生の生け花を絶賛。それを聞いて写真家・建築家・フ
ァッションデザイナーという方々も続き、おのおのの芸術
に通じるものに対して感動しておられました。

ラングさんはその後も先生宅への訪問を希望。生け花作
品のみならず、花器や日本家屋にも興味を示されました。
先生との対話を通して、日本の文化への理解をさらに深め
られた様子でした。先生の、心づくしの日本的なおもてな
しもよく理解してくださっていました。さらには先生の生
け花の映像記録を残したいと申し出られ、数日後再度訪問。
花材の選択から花を生けるまでの過程を撮影されました。

また、写真家のアンネ・ペールマンさんは先生の作品の撮
影を申し込んでこられました。先生が快諾してくださり、そ
こでも新たな交流がうまれました。この方も、作品の素晴ら
しさと、先生の流れるような手さばきに感動しきりでした。

滞在期間を終え、皆さん無事帰国されましたが、一連の
交流を大変喜んでくださったそうです。ゲーティンステイ
テュートから、新たに来日するドイツ人にも鴨沂会での文
化教室への参加をお願いしたい、との依頼が来ました。鴨
沂会が、日本とドイツ
との間の国際交流にお
いて、さらなる貢献が
出来る良い機会になる
と思います。



「日本伝統文化体験学習会」

公益財団法人 A F S 日本協会 京都支部顧問

荒木 泰子

今年も A F S の高校留学生たちが日本の伝統文化(茶道、
華道、書道)を体験させていただきました。九月二十五日
(日)「天神さん」の日でしたので、午前中北野神社にお参
りした後、日曜日ですのに大先生方総出で対応していただ
き、留学生たちの理解度ともかく、私ども A F S 支部員
は感謝あるのみです。京都在住の三人だけではもったいな
いと、滋賀、大阪の学校に来ている三人もお世話になり、
それぞれ、よそではできない体験をさせていただきました。
学校で書道を橋爪先生に習っているイーランは墨汁、硯の
扱いに一日の長を見せていましたが、お茶での正座、ふく
さ捌きには皆悪戦苦闘。お花では今年も先生の過分のお褒
めのお言葉に、恥ずかしさに身を縮めたのは私だけだった
でしょうか。世話役として伺った日本人大学生たちにもお
教えいただきまして有難うございました。
今後ともよろしく願っています。

「高校留学生伝統文化体験学習会」

日 時…平成二十八年九月二十五日(日)

会 場…鴨沂会館新館一階和室、会議室、談話室および本

館一〇一号室

参加者・留学生六名（米国男女生徒各一名、コスタリカ男

子生徒、イタリア女子生徒、オーストラリア女子

生徒、スイス女子生徒）

日本人高校生五名 A F S 日本協会京都支部員

華道 草月流 「伝統文化をふまえた生け花」

講師 木平 珠影 助手三名

茶道 裏千家 「講師による薄茶点前の実演と呈茶

及び留学生の盆略点前の実習」

講師 真継 宗美 助手二名

書道 「基本から創作へ」

講師 橋爪 荅苑

鴨沂会館新館一階談話室
において矢島理事の司会で
会長の開会の挨拶に引き続
き、華道、茶道、書道の講
師および助手をつとめるボ
ランティアの文化教室員が
紹介され、留学生とA F S
日本協会が自己紹介を行っ
た。

十三時五十分から新館一
階和室において茶道教室の
講師が、十四時五五分



ら新館一階会議室で華道教室の講師がそれぞれ伝統文化
の説明をし、助手の手助けて実技指導を行った。その後、
一〇一号室にて、書道を体験。授業終了後、談話室に留学
生がそれぞれ作品を持って集まり、留学生の体験学習発表
に講師が評価と感想を加えて、伝統文化教室員および本会
理事とも相互交流を図った。

「盆点前でご自服を」

平成二十五年から始まり四回目です。今回は十一名（男
子二、女子九）です。席入りして、床の間の前に座り一

礼をして、床の間の軸、花を
拝見します。大切なところな
ので軸の説明をし、花の名前
を教えます。はじめに風炉薄
茶点前を見学します。それか
ら水屋からの点て出しで一
服、季節の和菓子と抹茶をい
たいただきます。後各自で盆略点
前をします。まずは帛紗さば
きをして、棗、茶巾を清め、
茶筌通し、茶巾で茶碗をふき、
棗の茶を茶杓ですくって茶碗

真継 宗美



に入れポットの湯を入れ茶筌を振り、一服。それをご自服いただきます。お味はいかがでしたでしょうか。短時間ですが、伝統文化に触れ楽しんでいただきました。

床 「雪月花」 妙心寺管長 梶浦逸外筆

花 高砂芙蓉 秋海棠他

花入 籠

香合 秋草蒔絵

窯 真形

棚 長板

水指 色絵竜門

薄器 虫蒔絵 矢口永寿造 坂下雄峰造

茶杓 萩の露 妙蓮寺 尾崎老師作

茶碗 初雁 虫明焼

薄茶 千賀の浦 松籟園詰 かぎや延広製

菓子

「基礎から創作へ」

橋爪 荅苑

平成二十八年九月二十五日に開催された高校留学生書道体験学習会は、留学生及び日本の高校生も沢山参加していただき、楽しい時間を過ごせました。初めて筆を持ち、初めて引く線、どんな感触だったのだろうか、また墨の香りはどんなものだったのだろうか、そんなことも聞ける時間も



だが、留学生の作品は、自由で、伸び伸びした線の仕上がりになっていたと思います。

「ホームステイ留学生の受け入れ」

西村 和子

A F S の依頼で二〇一六年三月～六月迄は他の家庭で、七月から二〇一七年二月迄は我が家で、アメリカ人の高校生を受け入れました。

名前をイーラン バッカスといい花園高校の留學生徒となりました。イーランは本国に帰ったら飛び級で大学生となる非常に賢い男子高校生でした。彼の目的は日本語習得

ないまま、慌ただしい時間が過ぎてしまいました。先ずは線の引き方（直線及び曲線）を練習してもらい、用意した一字で意味をなす漢字の見本を見せ、その中から自分が書きたい文字（意味）を選んで、半紙に練習し、最後にはそれを團扇に仕上げ、お土産に出来るようにしました。あまり時間か無い中ではありま

にありました。受け入れして一年間で会話に不自由はなくなり、読み書きもそこそこ出来、我々とは冗談まで言い合う間柄になりました。彼の目的は彼の努力もあり十分叶えられた事になります。日本文化に興味のない彼でしたが受け入れ家庭としたらそうもいかないのです、それを無視して奈良、姫路、淡路島、神戸、大阪、映画村、展覧会と連れ歩きました。夫とは毎晩食事のあと囲碁をしておりました。最後まで夫が負ける事はありませんでした。最後のころは作戦を練ってきて面白かったそうです。

初め彼は猫アレルギーだとのことで私共は非常に注意して同じ部屋にイーランと猫が居ない様にしました。ある日私が外出から帰ってきたらいつも出迎えてくれる猫がいなくさんざん探しても見つからず、ひよっとしてと思いイーランの部屋を覗いたら猫がイーランの布団で寝ていました。彼が学校から帰ってきたので、その事を言いました「少し前から一緒に寝ている」と猫アレルギーもなく、それからは堂々と夕食時にはイーランの膝の上にいる猫でした。



思い出せば次から次へと尽きないのですが、帰国後暫くしてイーランからのライン写真をみたら我が家に居た時はまだ大きな少年のような感じでしたのに、本物の男性になつていたのには驚きました。先日の母の日にはラインと写真を送ってきてくれました。久しぶりに親業をしましたのでエキサイティングでラブリーな日々を楽しんでいます。今年アメリカにでも行くつもりをしていますので、イーランと会えたらいいと思っております。